

文化財を訪ねる かみのかわ山さな旅

石橋・真岡道を歩く

シリーズ最後となりました今回は、石橋から真岡に至る道を歩いてみましょう。現在は主要地方道上三川・真岡線、国道352号線という名称ですが、古くは石橋・真岡道、通称石橋街道と呼ばれ、明治時代のはじめに、壬生・栃木へと伸び、栃木道とも呼ばれました。

この道路は当時も河内郡南部と芳賀郡を結ぶ重要な道路でしたが、鬼怒川が交通の大きな障害でした。渡船で行き来をしていた大正15年に、架橋の陳情が行われましたが実現せず、昭和29年10月ようやく鬼怒大橋が完成し、現在に至っています。それでは石橋駅から鬼怒大橋まで歩いて見ましょう。

当時の街道の出発点である石橋駅西口を出てすぐ左に曲がり直進すると、県道にぶつかります。そこを左折し、500mほど直進すると、多功十字路に至ります。この北東隅には、「西石橋 壬生 栃木」東 上三川 大沼 渡船

真岡」と刻まれた、明治から昭和初期の道標が残されています。さらに東に300m進むと、右手に多功城主多功家の菩提寺である見性寺、左手に多功城の記念碑があり、鎌倉〜戦国時代の史跡を楽しめます。見性寺から1km進むと交差点にぶつかりますが、以前の道は国道に入らず、直進して下梁に抜けていました。田川に橋が架かっていた場所も、現在の国道352号線より南でした。



大通り公園にある道路元票

田川から800m進み下蒲生交差点を左折し旧道を進むと、上三川市街地に入ります。石橋・真岡道は上三川小学校の東を左折、150m北上後右折し、上三川城址公園の南側の道を東西に進んでいました。この道沿いには、戦前の商家の姿を今に残す生沼家住宅があるほか、道路を挟んで南の大通り公園には、大正時代に各市町村の主要道路の基点に設置された道路元票の一つ、「上三川町道路元票」が移設保存されています。ここから東に600m進み東館南部に入ると、明治時代に普門寺の東よりこの地に移されたお地藏様があります。道は上三川病院の南で旧道に合流し、鬼怒川を経て、真岡に至ります。

現在、道路はきれいに整備されても、昔の名残を残すものは意外とあるものです。しかし、自動車などに乗っている見過ごすことも多いでしょう。これを機会にゆっくりと歩いてみませんか？今まで気づかなかつた、郷土の姿が見えてくるかも知れません。

た報川柳 岡島秀宝 選

- 春の音させて一輪梅開く
上蒲生 鶴見 敏子
- 暖かい冬雑草がもう動く
石田 森山 アイ
- 暖房をつけても辛い床離れ
大町 小口 達子
- 三ヶ日女ばかりが忙しい
三村 上野久美子
- 長命のおちよこの酒に顔を染め
石田 高橋 世津
- 一本の輪ゴムこんなに役にたつ
上町 上野 広江
- 厄年がこんなにあつた初詣
石田 前原 秀雄

